

# 人やものとのかかわりの中で育む総合的な音楽活動

—第4学年「1／2成人物語」の実践を通して—

川口万里

## 1 生活の中に音楽を生かそうとする心を育む音楽の学習をめざして

本校音楽科では、子どもたちが、音楽科の授業で培った力を実際の生活場面で生かしていき、より豊かな生活を自ら進んで築いていけるようになることを目標としている。音楽の学習で様々な経験を積むことによって、子どもたちは、日々の生活に潤いをもたらせたり人とのつながりの大切さを教えてくれたりする音楽のよさを学んでほしいと願っている。特に、

- ①言葉では表せないような自分の伝えたいものを音に託し、相手に伝えるということ。
- ②人と人との心が一つにして、集団で音楽表現を工夫することにより、一人では為し得ない大きな表現を創り上げること。

の2点については、人と人とのかかわりの中で音楽活動をすることにより、味わうことができると思う。そこでは、感動を共有することができ、音楽を通して自分を表現することの喜びも味わうことができるであろう。

このように、自分の思いを大切にしながら、音楽科における基礎・基本の力を生かして、総合的に音楽をつくっていく活動の経験を通して、「音楽を生活に生かそうとする子ども」を育てようと考えた。

## 2 研究仮説

音楽に思いを託すことのよさを知るためには、自分の思いをしっかりと持ち、それを相手に伝えようとする意志力と、自分の思いを音や音楽で表現できる力が必要である。さらに、この表現力を高めていくには、表現の源となる自分の内面が豊かになっていくことが必要不可欠である。また、集団活動の中で自己の存在の大切さに気づくことや、表現し終えたときの達成感、充実感などを多くの人と共に味わうことを重視した活動を経験することも必要である。そこで、次のような研究仮説を設定した。

### 研究仮説

子どもたちが、自分の思いを伝えるために表現を工夫する学習活動の場を設定するならば、音楽や友だちとかかわりながら達成感や充実感などの感動を味わうことができ、音楽を生活に生かそうとする子どもが育つであろう。

## 2 実践の概要

(1) 題材名 「1／2成人物語—音楽で伝えよう 10才のぼく・わたし—」

(2) 題材について

本題材は、総合的な学習「1／2成人式をわたしたちの手で」と関連して設定した。第4学年では、子どもたちが10才という「1／2成人」を迎えるにあたって、自分史づくりに取り組み、自分を見つめる学習を行う。その過程において、子どもたちは命の大切さや周囲の人々とのかかわりに気づいていきながら、十分な内面耕しをしていく。この学習で形成されていく一人一人の思いをもとに、本題材では、クラスで話し合っただけで決めた4つのテーマ（「誕生」「友だち」「思い出」「未来&ドリーム」「幸せ」等）からなる「1／2成人物語」というストーリーを、歌とよびかけで構成し表現していこうという活動を行った。そこでは、子どもの発想による表現（例：BGM、劇、動作など）も取

り入れていった。

1/2成人物語のメッセージを託せる曲として、4つの教材を選択した。「誕生」の場面では、生命の大切さや荘厳さを感じさせる「アメイジンググレイス」を、リコーダーで演奏する。また、「友だち」の場面では、友だちに話しかけるように歌い始める「ビリーブ」を選んだ。「ありがとう」は、ありがとうと優しく語りかけて歌う部分のあるあたたかい曲であり、「思い出」の場面で、かかわっている大勢の人々を思い浮かべて歌えると考えた。最後の場面では、親の世代にも親しみのある「夢をあきらめないで」を取り上げた。共に励まし合う歌詞と躍動感のある曲想をもつこの曲を歌いながら、希望あふれる雰囲気の中かで物語をしめくくりにしていきたいと考えた。

本学年の児童は、日頃から明るい雰囲気の中でのびのびと表現している。小グループ活動では、互いに励まし合って活動する姿が見られる。リコーダーや歌声の美しいひびきのよさに気づきはじめ、集団でまとまってよいひびきをつくり上げていこうとする態度も見受けられるようになってきた。

〈シナリオ例〉

<p>四年二組 1/2 成人物語 『未来とドリーム』</p> <p>HG 「一〇年後、世の中はどうか変わっているだろうか？」 ※「二〇〇一年手帳の旅」</p> <p>JI 「これは、アメリカ大リーグ。」 ※全体振歌</p> <p>MLK 「テロも解決し、世界中仲良くなった。」 ※「アゲハチョウ」</p> <p>N 「僕は、四谷バスターでホームラン王だぞ。」</p> <p>OP 「一〇年前のあの四年二組から、世界的に活躍する野球選手がこんなにくさん。」</p> <p>RQ 「サッカーで活躍するオレもいるんだぞ。」 ※全体振歌</p> <p>OH 「まだまだある、やりたいもの。」</p> <p>GJ 「ぼくは、内科の医者になり、人々の役に立ちたい。」</p> <p>OH 「ぼくは、陸軍官になりたい。」</p> <p>OH 「ぼくは、……陸軍官付に出場し、全部クリア！」</p> <p>OH 「それは、ぼく達のドリーム。」</p> <p>OH 「すばらしい未来にむかって。」</p> <p>OH 「進んでいこう！」</p> <p>OH 「進んでいこう！」</p> <p>※「夢をあきらめないで」</p>										<p>四年二組 1/2 成人物語 『誕生』</p> <p>全員 「赤ちゃんとのお誕生 三秒」 ※小さくなってしゃがんでおく。</p> <p>A 「やっただよ」 ※パンザイをして立ち上がる。</p> <p>A 「生まれたね」</p> <p>A 「よかつたね、よかつたね。」 ※左右の両の人と握手をして喜ぶ。</p> <p>全員 ※リコーダー協奏曲</p> <p>B 「ようし、この子の名はいろいろ考えたが、「まやか」にしよう。」</p> <p>A 「この子は、「だいち」……という四いをこめて。」</p> <p>全員 ※「しあわせの歌」オルゴール風</p> <p>F 「私の名前が……という意味です。」</p> <p>F 「……と四つつけてもらいました。」</p> <p>F 「……なので、この名前にしたそうです。」</p> <p>F 「……という意味のこの名前がとても気に入っています。」</p> <p>F 「お父さん。」</p> <p>F 「お母さん。」</p> <p>F 「おじいちゃん。」</p> <p>F 「おばあちゃん。」</p> <p>F 「わたしを大切に育ててくれたみなさん。」</p> <p>F 「大切な命をありがとう。」</p> <p>全員 「ありがとう。」</p>									
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(3) 指導目標

- 1 場面ごとに工夫したいろいろな表現を楽しむことができるようにする。
- 2 テーマに合う表現や、気持ちをこめた歌い方を工夫することができるようにする。
- 3 歌詞の意味や曲の気分を感じて、自分の思いを生かした表現をすることができるようにする。
- 4 テーマに合った表現になっているか確かめたり、互いの表現のよさを見つけたりしながら聴くことができるようにする。

(4) 指導内容と計画……………10時間

第一次 1/2成人（音楽）物語をつくらう……………2時間

- ①活動の見通しをもつ。物語の構成と曲を知る。
- ②各場面のテーマを決め、担当場面を選ぶ。

第二次 表現を考えよう……………6時間

- ③④場面ごとにグループに分かれ、よびかけの内容を決める。  
(せりふ、BGM、歌、動作などで表現していく)
- ⑤⑥⑦⑧歌とよびかけのつながりや、表現のしかたを工夫する。

第三次 まとめていこう……………2時間

- ⑨場面をつないで演奏し、全体を把握する。
- ⑩演奏を録音して聴き、ふりかえる。

## (5) 伝えたい相手や表現する方法の設定

指導にあたっては、この物語をおうちの方々に聴いてもらう場を目標にすることで、子どもたちの意欲を喚起していった。また、1/2成人式を迎えた喜びを共に味わい、分かち合えるような物語にするために、学習過程では、「自分の思いを相手に伝えるにはどういう工夫をすればよいのか」という視点をもって取り組んでいくようにした。



今回の1/2成人物語は、第4学年の子どもたちの実態や学習経験をふまえて、合唱を中心とした演奏形態に呼びかけを加えた構成を提示していくことにした。その中で、自分の思いを出しながら自由に加えたいものを選択したりつくったりしている場を設定していくようにした。

## (6) 表現の工夫のポイント

表現を工夫していく過程で、各自が思いを明確にもち、それを確かめ合う場を設定するならば、互いの表現のよさに気づいて意見交換でき、よりよいものをめざして進んで工夫していくことができるであろう。

子どもたちがつくったよびかけの表現と全員で演奏する歌をつないで演奏してみるところから、いよいよまとめと仕上げの段階に入る。よびかけの部分を表現する時、子どもたちが伝えたい相手を想起したり、友だちとの様々な出来事を思い浮かべたりしていることが大切である。その雰囲気をつくっていきながら、自分なりに思いを込めた演奏を、録音してみるようにする。それを聴いて、気づきを出し合い、表現のしかたについて課題を出し合っていく活動を何度かくりかえした。「やってみる→確かめる(録音)→手直しする→確かめる(録音)→決める」というような過程を経ることによって、子どもたちは自分が満足する表現をつくっていくことができるようになる。

この音楽物語で最も気持ちが昇華される場所は、歌やリコーダーの演奏部分である。そこで、思いを込めた歌声とそうでない歌声はどう違うか、子どもたちが表現したかった思いはどのように歌声に表れていっているのかななどを、教師は、確かめ投げかけていくようにした。よびかけの言葉と歌詞の結びつくところを探したり、ふだんの生活場面を思い出してみたりするなどして、子どもたちの伝えたい気持ちをできるだけ明確なものにしていくことがポイントである。また、声のトーン、言葉使いや抑揚、表情、テンポなど具体的な点をあげ、いろいろな方法で表現を試行してみる場を設けることも不可欠である。

## (7) 学習活動の流れ

第一次 1/2成人(音楽)物語をつくろう

①活動の見通しをもつ。物語の構成と曲を知る。

「音楽物語をつくろう」

- ・1/2成人を迎えるわたしたちの今を音楽物語にして残そう。
- ・表したいこと(テーマ)を4つにしぼって場面をつくっていこう。

②各場面のテーマを決め、担当する場面を選ぶ。

「自分が表現したい場面を選ぼう」

- ・「Ⅰ誕生」「Ⅱ友だち」「Ⅲ思い出」「Ⅳ未来&ドリーム」の中から、自分が表現し

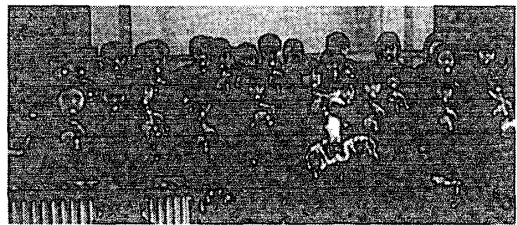
- たい場面を選び、グループを組もう。
- ・テーマについて自分の思いを出し合おう。

### 第二次 表現を考えよう

- ③場面ごとにグループに分かれ、よびかけの内容を決める。
  - ・場面ごとのイメージをまとめていこう。
- ④せりふ、BGM、歌、動作などで表現していく。
  - ・自分の思いにあった表現をつくっていこう。
- ⑤⑥テーマに基づいて、自分たちの思いが伝わる表現になったかどうかを確かめ、よりよい表現を工夫する。
  - ・伝えたい気持ちが表れる歌い方を工夫しよう
- ⑦⑧歌とよびかけのつながりや、表現のしかたを工夫する。
  - ・各場面の流れをよくしていこう。
  - ・各場面を録音して聴いてみよう。

### 第三次 まとめていこう

- ⑨場面をつないで演奏し、全体を把握する。
  - ・最後まで、タイミングよく演奏しよう。
- ⑩演奏を録音して聴き、ふりかえる。
  - 伝えたい相手を思い浮かべて、演奏しよう。



### (8) 1 / 2 成人式での様子

12月の参観日に、1 / 2 成人式が行われ、そこで「1 / 2 成人物語」を発表することができた。子どもたちは、とてもはりきっていた。緊張しながらも、クラスのみならず気持ちもそろえて、楽しそうに演奏に没頭していた。一人一人がはっきりと大きな声で言葉を言うことができた。演奏では、40人の歌声やリコーダーの音が一つによくまとまり、ホール中に響き渡る音色は、聴く者の心を揺り動かした。

子どもたちの工夫したBGMや動作を交えたよびかけは、純粋で素直な気持ちがまっすぐに伝わってきた。元気よく打楽器を響かせながら歌う、自分たちへの応援歌は、大変ユーモラスで子どもらしい発想がほほえましく感じられた。「ビリーブ」や「ありがとう」などの歌も、気持ちを込めて一生懸命に歌う姿を見ることができた。

発表の途中から、聴いている我々も何か胸にこみ上げてくるものがあった。ハンカチで目頭を押さえるお母さん方もたくさんおられた。終わった後で、おうちの方からどんな声かけをしていただいたか子どもたちにたずねたところ、一番多かったのが「感動したよ。」という言葉だった。他に、「あなたの小さい頃を思い出したよ。」「みんなよくまとまっていて、仲良しなんだということがよくわかったよ。」というものもあった。

子どもたちは、自分たちの式だという自覚をもって、1 / 2 成人式の一瞬一瞬を楽しみ味わいながら、活動することができていたと感じた。



### (9) 考察

子どもたちが答えたアンケートのまとめから、この学習をふりかえってみた。

【アンケート】

☆楽しいと感じたところはどんなところでしたか？

〈認め合い〉	・自分や友だちのつくった応援歌 ・2組の赤ちゃんが産まれる場面 ・友だちが楽しそうに発表していたところ
〈自己実現〉	・自分の役（担当楽器）を演奏したとき ・音楽に合わせて楽器を演奏するところ ・鉄琴がうまくできた ・歌を歌ったとき ・自分のせりふを言うとき ・せりふをうまく表現できた ・大きな声で言えた ・ピアノを心込めてひけた ・自分のせりふ・ピアノが上手にでき、思うとおりにできたこと ・私がせりふを言ったとき笑ってくれたこと ・自分の好きなことをおうちの人に発表できたこと
〈協力・連帯・工夫〉	・応援歌や動作をつくったこと ・友だちと意見を出し合って練習しているとき ・みんなで協力して成功したこと ・鉄琴で良いアイデアがでてよかった ・グループのアイデアがとてもうまくいきスムーズに行ったとき ・みんなをまとめてアドバイスを出してあげたりしたときにやる気が出てとてもよかった ・みんなと協力できて楽しくできた ・楽器の練習でみんなと合わせる練習 ・みんなで楽器を演奏したとき ・BGMを考えるとときにいろいろな意見が出たとき
〈達成感〉	・最後の歌を歌うときワクワクしました。 ・終わったとき拍手をしてくれたこと ・自分のせりふが上手に言えた後 ・みんなで通してやってばっちりできたとき ・物語を最後までうまくやれたこと ・みんなできちんとできたところ ・練習の成果が出たこと ・歌を歌ったりみんなが演奏をしたりしたとき、練習をがんばれた

☆気持ちを込めた表現をしていくために気をつけたことは何ですか？

〈相手を意識して〉	・人に聞こえるように大きな声で言うこと ・友だちや保護者の方全員に聞こえるようにしっかり大きな声で優しく言う ・語りかけるように言った、今までの感謝の気持ちを込めて ・お客様の方を向いて明るくしゃべる ・心を込めて歌ったこと ・伝えたい人の方を向いて大きな口を開けてせりふを言った ・あまり恥ずかしがらずはっきり言うということ
〈よりよい表現にするために〉	・しっかりと歌と歌う ・なるべく前を向き姿勢を正しくして言葉を言った。笑顔で、声を大きく ・明るく言ったり歌ったり楽しく笑ったところと心を込めて大きな声で歌った ・姿勢をよくして伝える人に大きな声で気持ちを込めていった ・笑って歌うこと ・姿勢を正してずっと前を向いて笑顔で取り組みました ・ひとことずつ心を込めて ・せりふをゆっくりいったこと ・声の高さ・発音 ・一文字ずつを大事にする

この活動を通して、各場面のもつ雰囲気や気持ち、曲想を感じ取って、それを表情豊かに表現する工夫を学習していった。その結果、一つ一つの言葉の意味や重みをかみしめて、心を込めて表現しようとする意識をもつことができたといえる。

さらに、集団で表現する力の大きさや連帯感を実感しながら、みんなで作くりあげた達成感、満足感を味わうこともできた。1/2成人式で、保護者の方々に音楽に思いを託して伝える、という場を経験したことによって、気持ちをこめて表現することのよさに



に気づくことができたと思われる。今後も、このような感動体験を、継続してさらに積み重ねていけるようにしたい。